

私は多文化共生教育コースに所属しており、授業で人種や移民などの視点からアメリカの歴史を学ぶ機会があった。今回のプログラムで訪れるミシガン州も、現在ではヨーロッパ系を祖先に持つ人々が多く、移民が多い州であると言える。実際にミシガン州を訪れることで、移民が多い州ならではの多文化の表れ方や工夫をみるのでないかと思い、このプログラムに参加することを決めた。

今回のプログラムでは、個人プロジェクトとしての「ミシガン州の多様性」というテーマのもと、ミシガン州において人種や宗教、文化など、人間の多様性がどのように表れているのかという視点を常に持ちながら生活することを心がけた。今回のプログラムで特に印象的だったのは、デウィットにある中学校と高校を見学したときの白人の多さである。プログラムに参加する前に調べた際には、ミシガン州はアメリカの中でも移民の多い州であるという印象があったため、学校内で出会う生徒やクラブ活動の写真などに写る生徒にほとんど白人しか見られなかったことにはとても驚いた。一方、この中学校と高校よりもデトロイトの近くの地域にある日本語イマージョンスクールを訪れた際には、アジア系以外にも黒人の生徒の姿が多く見られ、同じ州でも地域やその環境によって人種構成が全く異なるということを実感した。デウィットの中学校、高校の先生の話でもこの学校には多様性がほとんどないらしいが、交換留学制度など学校内には多様性が少しでもうまれるような取り組みを行っていることには強く感心した。同じ地域の中学校においても、Accept や Be Kind、Respect などの単語が書かれ、相手を思いやり、受け入れることをめざすような、生徒自身の手で書かれた貼り紙が廊下のいたるところに見られた。このように、多様性はあまりないながらも、多様性や違いに対する寛容さを養うような取り組みがみられ、日本の学校との違いを実感した。日本では人種や人間の多様性について学校で考える機会はあまりなく、身近な話題になることも少ないが、アメリカでは地域によっては人種や使う言語が異なる人が多いということが当たり前であるため、多様性に対する考え方が根本から違うように感じた。人々が国を越えて行き来することが当然となっている現在、人種の多様性は国によって異なるものの、多様性や違いに対する寛容な考え方はどこの国においても重要であると思う。だからこそ、デウィットの中学校、高校での取り組みで見られたような多様性に対する姿勢は日本の教育においても見習うべき部分があるのではないかと思う。

今回のプログラムを通して、自分が専攻する多文化共生教育のひとつのあり方を知ることができた。現在の日本では、東京オリンピックなどに向けた外国人就労などの様々な対外政策が行われているが、今後はそれにともなってますます多様なバックグラウンドをもつ人々が日本に集まるはずである。そして、近い将来、日本国内の多様性はより広まっていくはずであり、それにともなって教育も進化していかなければならないと思う。私は、将来学校外での教育支援にたずさわりたいと考えており、将来の教育を少なからず担う立場としてこれからの多文化共生教育のあり方をより深く考える貴重な機会となった。